

キャベツバーティシリウム萎凋病の診断・対策支援マニュアル

圃場の診断に基づいて発病のしやすさを評価し、適切な対策を選ぶことでキャベツ病害の発生を軽減

研究開発の背景

- ・夏秋キャベツ産地において、キャベツバーティシリウム萎凋病が問題となっており、生産者が自ら実施できる防除技術の開発が求められている。

研究成果の内容

圃場の診断、発病の確認及び適切な防除技術の決定を支援するマニュアル

1. 診断



収穫時に圃場全体の発病を確認。発病のしやすさを3段階で評価し、次年度の対策が必要かどうか判断

レベル	圃場の外観	収穫時の結球部 切り口の褐変
レベル1	異常なし	褐変なし
レベル2	黄化・萎凋した株がある	褐変した株あり (5%未満)
レベル3	黄化・萎凋した株がある	褐変した株あり (5%以上)

2. 評価



圃場の評価に応じた防除技術の導入を決定し、対策を実施

レベル	エンバク 野生種	作型の変 更	抵抗性 品種	殺線虫 剤	土壌くん 蒸剤
レベル1	○		現在の 品種		
レベル2	○	○	中～強	○※	
レベル3	○	○	強		○※

※可能であれば、実施することをお勧めします。

3. 対策



- ・生産者自らが、現場で診断・評価を行い、適切な防除が可能に



後作でのエンバク野生種導入

- ・マニュアルの支援による対策技術の導入は、被害を軽減するのに有効

マニュアルの支援 に対して	平成27年 5%以上の被害	平成27年 5%未満の被害
推奨する方法で栽 培した場合	4事例(6%)	60事例(94%)
推奨する方法で栽 培しなかった場合	6事例(17%)	30事例(83%)

導入
メリッ
ット

期待される効果

- ・生産者自らによる診断・評価が可能であり、適切な防除によって持続的生産に貢献。
- ・過剰な防除を回避でき、労力やコストが削減できることで、経営安定に寄与。

開発機関：群馬県農業技術センター、旧国立研究開発法人農業環境技術研究所、予算区分【競争的資金】

導入をオススメする対象
全国のキャベツ生産者・生産団体